

東村山市 ～みどり にぎわい いろどり豊かに 笑顔つながる 東村山～

【児童・生徒数】 10,364名（令和6年5月1日現在）
【学校数】 23校

【東村山市の特色】

- ・武蔵野台地の中央に位置し、緑の多い八国山や多摩湖など自然豊かな街である。
- ・子供たちが持続可能な社会の担い手となるよう、SDGsの取組を積極的に推進している。



【課題・改善】

次の取組へ

【実態・課題】

- 2つの成果指標に基づき、各学校の成果状況を把握した際、学年や性別によって、偏りが見られた。
- ⇒各学校において成果状況を踏まえた運動やスポーツの機会の創出の工夫及び取組改善を図る。
- 本事業の取組が市内の児童・生徒の更なる運動習慣の確立につながるようにする。
- ⇒事業の取組を市内小・中学校へ発信し、普及啓発を図る。
- ⇒本事業の取組を通じた児童・生徒の運動との関わり方を児童・生徒質問紙調査等で継続的に把握し、東村山チャレンジスポーツ・スクール推進委員会を中心として、運動習慣の確立に向けた取組の研究・開発を行う。

- ・コロナ禍以降、本市の児童・生徒の体力は低下傾向が顕著であり、特に小学校の令和3年度以降の体力調査においては、全国平均と大きく乖離している運動種目が毎年5種目程度ある。
- ・運動を行う児童・生徒の二極化傾向が見られ、令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果によると、特に運動時間が1日1時間未満の児童・生徒が一定数いる。
- 《取組の方向性》
- ⇒児童の運動への意欲を喚起することができるよう、専門的な外部指導者及び市内全小学校1名ずつの教員で構成される「東村山チャレンジスポーツ・スクール推進委員会」との連携・運動を通して、多様な運動機会の創出や児童自らが運動習慣の定着を図る取組の充実を行う。

目標

- ①授業以外でも自主的に運動（運動遊び）やスポーツをする時間をもちたいと思う児童の割合の増加
- ②毎日、合計60分間以上、授業以外でも運動（運動遊び）やスポーツを行う児童の割合の増加

【成果】

○成果指標①

授業以外でも自主的に運動（運動遊び）やスポーツをする時間をもちたいと思う児童の割合

【令和5年度】	【令和6年度】
第1学年 88.7%	第2学年 90.0%
第2学年 88.1%	第3学年 89.3%
第3学年 85.4%	第4学年 86.3%
第4学年 83.3%	第5学年 84.7%
第5学年 81.9%	第6学年 81.1%

○成果指標②

毎日、合計60分間以上、授業以外でも運動（運動遊び）やスポーツを行う児童の割合

【令和5年度】	【令和6年度】
第1学年 38.9%	第2学年 40.4%
第2学年 43.0%	第3学年 43.3%
第3学年 42.7%	第4学年 45.5%
第4学年 53.2%	第5学年 54.8%
第5学年 55.9%	第6学年 55.9%

【取組】

○スポーツの関係機関等と連携した取組の充実

- ・「ロンドフィットネスクラブ東村山」と連携したダンス教室を実施する。

○多様な運動機会の創出

- ・「わくわく先生からの運動遊び動画」を作成し、体育の授業や休み時間、家庭等で活用する。
- ・「体力の必要性に関するオリエンテーション動画」を作成し、児童や保護者に対する児童期以降の運動習慣形成の重要性の理解啓発につながるよう、活用する。

○児童自らが運動習慣の確立を図る取組の充実

- ・小学校間交流における体育的活動の取組推進を図る。

○課題に応じた研修及び教材開発

- ・教員研修の実施や市独自の「教員・児童向け体力調査の実施の手引き」の作成を行う。

【取組（詳細）】

1 スポーツの関係機関等と連携した取組の充実

○「ロンドフィットネスクラブ東村山」と連携したダンス教室の実施

市内小学校第4学年から第6学年までの希望する児童を対象に、インストラクターによるダンス指導を全14回実施した。取組の成果として、令和7年2月2日（日）に開催された「第26回市民の集い」において、ダンス発表を行った。

児童は、活動を通して運動に意欲的に取り組み、目標に向かって粘り強く挑戦するとともに、他者との関わりの中で、自己肯定感や自己有用感を高めることができた。



【児童の運動との関わりの変容についての主な振り返り】

- ・私は、運動することは大切だと思ようになりました。それは、運動する楽しさが分かったからです。
- ・私は、自分が思っていることを表現して運動する楽しさを知ることができました。
- ・私は難しいことでも、友達と教え合って練習することで、できるようになることを実感できました。

2 多様な運動機会の創出

○「わくわく先生からの運動遊び動画」の作成及び活用

体力調査における各種目の動きにつながる運動遊びを体育の授業や休み時間、家庭で取り組めるように、市内小学校教員が運動遊び動画を15種類作成し、運動習慣の定着を図った。

各小学校では、児童に対し、長期休業期間中、運動遊び動画を活用して家庭でも運動に取り組めるように促した。また、運動遊び動画の内容を体育の授業導入時の感覚づくり運動として扱った。本動画の活用を通して、児童は、本動画で示された運動遊びに進んで取り組むことで、様々な動きを身に付けるきっかけとすることができた。

【わくわく先生からの運動遊び動画】



○「体力の必要性に関するオリエンテーション動画」の作成及び活用

児童や保護者が、児童期以降の運動習慣形成につながる取組の重要性について理解できるように、体力の必要性に関するオリエンテーション動画を作成し、運動習慣の定着に向けて活用を図った。各小学校において、体育の体づくり運動系領域の学習時の導入に本動画を活用して、オリエンテーションを行ったことで、児童の運動の必要性を理解して学習に取り組もうとする姿が見られた。

【体力の必要性に関するオリエンテーション動画】

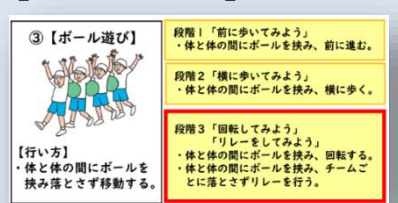


3 児童自らが運動習慣の確立を図る取組の充実

○小学校間交流における体育的活動の取組推進

- ・これまでの「一校一取組」や「一学級一実践」の更なる充実を目指し、休み時間等において、学級集団の中で児童が動きを広げながら運動に取り組むことができる体育的活動を計画し、実践した。1つの体育的活動を計画する際は、「段階1-全ての児童が取組める」「段階2-条件を変えても取組める」「段階3-自分たちで工夫して取組める」の3段階で構成した。
- また、各学校の取組については、「東村山チャレンジスポーツ・スクール推進委員会」Google classroomにより定期的に、全校で共有できるようにし、他校の取組を自校の取組に生かすことができた。
- ・市内全小学校が体育的活動「チャレ・スポひがしむらやま」に参加し、体育の授業や休み時間において、学級や学年等の集団で、体育的活動に取り組んだ。その際、運動の行い方で「段階3-自分たちで工夫して取組める」活動の様子をウェブサイト「チャレ・スポ広場」の各学校のページで紹介するとともに、年度末に表彰を行い、児童の活動意欲の向上を図った。
- 種目によっては、児童が主体的に運動の行い方を工夫して楽しく活動することができた。また、本活動を通して、交友関係に広がりが見られた児童もいた。

【体育的活動例】



【ウェブサイト「チャレ・スポ広場」】

